

# 補足)牽引(ひっぱり)試験(forced duction test:FDT)

準備物 点眼麻酔・開瞼器・固定ピンセット



目的

・恒常性斜視において眼球を正位に近づけての複視の有無の確認と手術量の決定  
・網膜対応の把握

## 斜視の対応診断の場合

点眼麻酔をし、開瞼器を掛け患者の前に1本指を出し、固視眼で指を見ているように命じ、固定ピンセットで正位になるように動かす

YES



その時指が2本か？

NO

NRC なら複視はないね！

正位にした時の指の見え方が外斜視の場合、同側性複視となり、内斜視の場合、交叉性複視となるか？



背理性複視だね。

YES

異常対応

斜視角の位置でちょうど対応している HARC だと少し動かすだけでこうなるね。でも臨床ではこんなに簡単ではない。

YES

わずかに正位に近づくように動かすだけで複視が発現するか？

NO

調和性異常対応

不(非)調和性異常対応

正常対応

対応欠如・抑制？

術後複視が発現する可能性大

術後複視が発現する可能性は殆んどなし

外斜視の場合、意図的に内斜視にすると同側性複視となり、内斜視の場合、意図的に外斜視にすると交叉性複視となるか？

YES

NO